

各関係機関長 殿

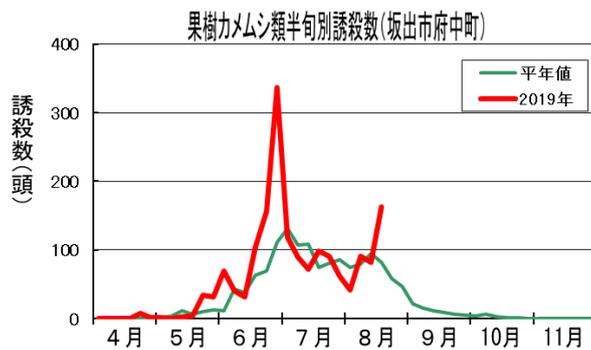
香川県農業試験場病虫害防除所長  
(公 印 省 略)

令和元年度病虫害発生予察注意報第 4 号について

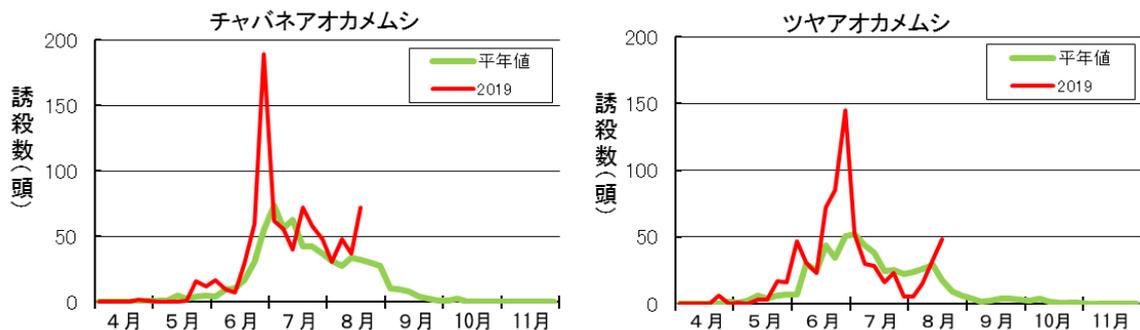
このことについて、次のとおり発表したので送付します。

令和元年度 病虫害発生予察注意報 第 4 号

1. 病虫害名： 果樹カメムシ類
2. 対象作物： カキ、キウイフルーツ、カンキツ等
3. 発生が予想される地域： 県下全域、特に山林隣接園
4. 発生程度： 多
5. 注意報発表の根拠
  - 1) 令和元年 6 月 7 日に果樹カメムシ類の越冬世代成虫に対して注意報第 1 号を発表したところであるが、今般、府中果樹研究所の予察灯で第 1 世代成虫の誘殺数が増加したため、注意報第 4 号を発表する。8 月第 4 半旬のカメムシ類（主要 4 種、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ、アオクサカメムシ、クサギカメムシ）の誘殺数は平年の 2.0 倍（本年：163 頭、平年：82.1 頭）と多かった（第 1 図）。特にチャバネアオカメムシの誘殺数は平年の 2.2 倍（本年：72 頭、前年：23 頭、平年：32.3 頭）であった（第 2 図）。また、ツヤアオカメムシの誘殺数は平年の 2.8 倍（本年：48 頭、前年：2 頭、平年：17.3 頭）であった（第 2 図）。
  - 2) 今後、県下主要果樹のカキ、キウイフルーツ、カンキツ等で被害の多発生が懸念される。



第 1 図 府中果樹研究所における主要 4 種カメムシの誘殺状況



第 2 図 チャバネアオカメムシ及びツヤアオカメムシの誘殺状況

## 6. 防除対策

- 1) 圃場内をよく観察し、被害果実やカメムシ類の発生が見られる場合は、早急に防除を実施する。特にスギ、ヒノキ等が周辺に多い圃場や、過去に被害が認められた圃場では注意する。
- 2) 多発してからの防除は防除効果が劣る場合があるので、発生初期の防除を徹底する。
- 3) 成虫は夕方に飛来し夜間加害するので、薬剤散布は夕方に広域かつ一斉に行うと効果的である。
- 4) 黄色蛍光灯は、チャバネアオカメムシには忌避効果があるが、ほかのカメムシ類には効果がないので注意する。
- 5) 薬剤の特徴は、有機リン剤は速効性だが残効が短い。合成ピレスロイド剤は残効が長く殺虫効果だけでなく吸汁阻害効果があるが、天敵に影響を及ぼすため連用するとカイガラムシやハダニ類が急激に増加することがあるので注意する。ネオニコチノイド剤は殺虫効果が有機リン剤や合成ピレスロイド剤より劣るが、吸汁阻害効果があり残効も長い。
- 6) 防除薬剤は、香川県主要農作物病害虫・雑草防除指針や果樹研究同志会が発行している果樹病害虫防除暦等を参考にする。
- 7) 作物によって、登録のある薬剤が異なるので、使用にあたってはラベルをよく読んで、登録の有無や収穫前日数、使用回数等使用基準を遵守する。

**農薬はラベルをよく読んで使用しましょう**



6月～8月は、農薬危害防止運動月間です。  
農薬の使用が増える時期ですので、今一度、農薬を適正に  
使用できているか、チェックしましょう。

\*養蜂が行われている地域では、養蜂関係者と情報交換等の連携を緊密に行うとともに、農薬使用に際しては、養蜂関係者に対し、事前に農薬使用の予定の情報提供を行い、危害防止対策を講じましょう。

病害虫防除所インターネットホームページ  
URL: <http://www.jppn.ne.jp/kagawa/>